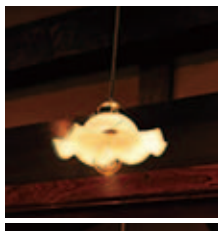
ザ AZABU
Community Information Paper
No.45 September 27 2018
発行／港区麻布地区総合支所
編集／ザ･AZABU編集室　〒106-8515 東京都港区六本木5-16-45
電話／03-5114-8812　ファックス／03-3583-3782
暮らしの疑問は、「みなとコール」でお答えします。電話／03-5472-3710
麻布地域の人々が取材 編集する地域情報紙

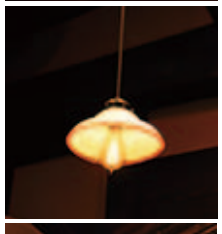
アートな麻布に魅せられて⑱
～麻布の美味しいアート～

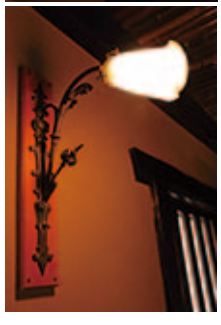
東麻布の土器坂（かわらげ）。今はビルが立ち並ぶその中腹に、突然現れる蔵屋敷のような佇まい。「野田岩」の本店である。ビルの合間にありながら、外観は大きな看板と相俟（あいま）って強烈なインパクトがある。それでいて不思議とこの景観に馴染んでいる。何気なく歩いていると見逃してしまうかもしれない。そんな「不思議さ」に魅かれ店内に入ると、そこにはたくさんの「心意気」が込められていた。

「食べる」を楽しむ

一歩店内に足を踏み入れると、外観とは別世界の空間が広がる。2階へ続く階段は、ずっしりと重みのある印象。この先にはどのような空間が待っているのだろうか、と期待が膨らむ。現在の店舗は昭和50年に建てられ、内装には飛騨高山の古民家のパーツをふんだんに使っている。その量、実に6棟分にもなるそうだ。そこまでこだわった大きな理由は、「食事をする場を、楽しんでもらいたい」から。この心意気は店舗の細部に至るまで強調されている。例えば、照明一つとっても、京都の古道具屋から購入した物や、イタリア、フランスのアンティークの物までこだわり抜いている。それでいて、調和された設えに統一されていて、まさに「アート」な豪華さだ。ところがその豪華さは、決して食事の邪魔をしていない。和やかに会話をしながら「食べること」を楽しめる空間になっている。「古民家」という選択もさることながら、それだけでは演出しきれない「不思議な熱意」がそうさせているのかも知れない。







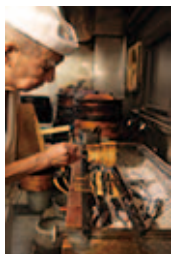
照明一つひとつにもこだわりを尽くしている。やわらかい明かりがさりげなく目を楽しませてくれる

階段を上った先には「古民家」とはかけ離れた豪華な空間が広がっている。写真中央に見える手すりは「市役所」で使われていたものだそうだ。古民家然としているだけではなく、豪華さをさりげなく取り込んで楽しませてくれる心にくい演出に思わず笑みがこぼれる

思わずつまみたくなる程愛らしい「うなぎ」の箸置き

正面の格子戸や天井には今では数少ない（飛騨）春慶塗が施されている。とても豪華な空間でありながら、どこか懐かしく心が和む雰囲気がある。たおやかな時が流れている

まさに江戸時代から抜け出した「蔵屋敷」といった外観。これだけのインパクトであるにもかかわらず、周囲の景観に驚くほど馴染んでいる



今年で御年90歳の5代目金本兼次郎氏。うちわの煽ぎ方ひとつ余念がない。外の暑さとはまた違った熱気が厨房からほとばしる。「生涯うなぎ職人」の情熱がうなぎに込められている

店は人がすべて

200年も続く老舗が守っているものは「味」や「技」だけではない。「食べに来てくれたすべての人に満足してもらいたい。そのためにはお店の雰囲気も楽しんでもらわなければ。」そんな思いが建物の中に詰まっている。今回の取材では特別に厨房も覗かせていただいたのだが、職人一人ひとりが常に生き生きとした表情で、一心不乱に料理に取り組む姿を見て、ここで守っているものが「人」であることをしみじみと感じた。この店の建物が体現しているのは「人」を大切にする心意気。「不思議な熱意」も「相反するイメージ」もすべては「人」が根幹にあればこそ生まれるもの。

麻布の一角に、心に響く美味しい「アート」があった。

●取材協力／野田岩五代目 金本兼次郎氏

●参考文献／金本兼次郎『生涯うなぎ職人 二百年続く老舗「野田岩」の心と技』
株式会社商業界 2011年

（取材／高柳由紀子、田中康寛　文／田中康寛）

麻布びと

未来へ残したい麻布の声

「かうひいや　カファブンナ」マスター
能勢顯男（のせあきお）さん（82歳）

六本木の大通りから少し入ったビルの2階にある「かうひいや　カファブンナ」。常連客のみならず、新規客も絶えず惹きつける老舗の喫茶店だ。1972（昭和47）年の創業以来足かけ46年間、定休日なく店を営んできたマスターの能勢顯男（のせあきお）さんにお話をうかがった。

気さくなマスターは音楽が大好き。

店内に花を絶やさない。これもご自分で調達

分銅で測るため、壊れることない天秤。
この店の中でいろいろな調度品が骨董化している

とても黒い深煎りのコーヒー豆たち

戦中戦後は母子二人で生きのびた。

1936（昭和11）年、（当時の）本郷区千駄木生まれの能勢さんは、戦前・戦中にお父様とお兄様を相次いで亡くされお母様と二人で厳しい時代をくぐり抜けた。終戦前年の秋に池袋の自宅から疎開先の西多摩郡（現在のあきる野市）に移るにあたっては、連日家財道具を抱え何往復したかわからないという。山手線、中央線、青梅線を乗り継ぐ間、物盗りに狙われるなど怖い目にもあった。

「子どもでありながらどん底の世界を見たという記憶がありますよ」

玉音放送は疎開先の村長の家の庭先で聞いたと記憶している。やがて戦後間もなく、親子で南青山の地に住むことになった。

コンクリート塀を家の壁の一面に見立て、トタン屋根をのせてこしらえたバラック小屋で新生活が始まった。

以降、三田の慶應義塾中等部に通い始めるなど、港区にゆかりのある能勢さんの暮らしが今日までずっと続く。

開店間もない頃の能勢さんと店内（手前の2枚）

アメリカの音楽と深煎りコーヒーとの出会い。

「音楽は耳から自然と入ってきたんですよ。高校3年の頃好きになって、大学時代は通学の途中渋谷で降りて、一杯40～50円のコーヒーを飲みに友だちといろんな喫茶店に行って音楽を聴いてましたね」

大学では法律を専攻されたということだが、能勢さんが熱く語ってくれたのは映画音楽を中心とした古き良きアメリカのポピュラー音楽との出会いだった。

一方、卒業後の就職先に関してはこれといった決め手がなく、若い頃は幾つかの転職を重ねたという能勢さん。そんな中ある時期通った喫茶店で「焦げるほど深く焙煎されたコーヒー豆の美味しさ」に初めて出会った。ピンときたという。そこで天職が決まった。

36歳で六本木７丁目に開業。

1年ほどの修行の後、コーヒー専門の喫茶店を独立開業したのは1972年12月だった。運命的に出会った焙煎会社コクテール堂の深煎り豆を挽き、ネルドリップで抽出するこだわりの味だ。ちなみに店名の「カファブンナ」はエチオピアにあるコーヒーの原産地の地名「カファ」と、現地の言葉で豆を意味する「ブンナ」をつなげたものだそうだ。開店当時の写真を見ると現在と全く変わりがない。存在感のある天井の梁、象牙色の漆喰壁、頑丈そうな床のレンガなど、年月を経て味わいが増している。創業時のブレンドは一杯180円と当時としては高めの値付けだったが、能勢さんは開業早々成功を確信したそうだ。曰く、

「クチコミでどんどんお客さんが増えてきましたから。取材もたくさん来ましたよ」

音楽鑑賞イベントの光景

気さくなマスター健在。

開店当時の能勢さんの写真を拝見すると、ネクタイの太さこそ時代を感じさせるものの今もって全く変わらぬ雰囲気を漂わせている。

「実際、僕は自分が老人だと思っていないんですよ。同級生の中でも一番若いと思っている」

と自負する能勢さんは、十年以上前から人を雇わずに一人で店を切り盛りしている。そのため実によく動く。豆を計量する、ブレンドする、注文を訊く、ドリップする、グラスの水をつぎ足す。カップを洗っていると黒電話が鳴る。取引先からだろうか。カウンター内をステップして在庫を確認すると手短に注文する。息を切らすことはないが絶え間なく体を動かすことが健康法になっているらしい。

「いらっしゃいませ。お一人でしたら、カウンター席はいかがですか」

「ありがとうございました。またおこしください」

能勢さんの物腰は、老若男女問わず訪れるお客さんに対して等しく丁寧だ。

「この店に関してはね、今はそんなにモチベーション高くないですよ。コーヒー屋なんてそんなに難しいことない、僕にでもできちゃうんですから。長いことやってるだけでね。とりあえず50年は目標にしてるんですけどね」

と謙遜する能勢さん。売り上げや客数はピーク時に比べると減っているのかも知れない。でも46年間家賃を払いながら栄枯盛衰の激しい六本木の街で健在な喫茶店は稀有なはずだ。いばらない・気どらない・愚痴らない、気さくなマスターである。

店内で音楽鑑賞イベントも。

能勢さんは月に1～2度、店内でイベントを開催している。とてもシンプルな企画で、大好きな映画音楽を毎回20曲ほどピックアップして簡単な解説の後に全員で鑑賞するというもの。

「日本では、“昼下がりの情事”というタイトルで流行った映画の曲です。FASCINATION（ファシネーション）。20世紀初頭のシャンソンですね。メゾソプラノ歌手でお届けします。素敵なので聴いてください」

と言った具合だ。時折、能勢さんも口ずさんでいる。1曲終わる毎にお客さんたちが小さく拍手する。店全体がほのぼのとした空気に包まれる。この日は「ゴッドファーザー 愛のテーマ」も紹介された。日本国内でも大流行したこの映画が初上映されたのは、能勢さんの開業と同じ1972年だった。

今日も明日も明後日も、同じ場所で同じ人が迎えてくれる。「店は人がつくる」ということを文字どおり体現されている姿に感銘を受けた。

（取材／大村公美子、高柳由紀子　文／大村公美子）

まちのお役だち 3

麻布の地域事業・ミナヨク発

『おつかい大作戦』を紹介します！

みんなで まちをよくする ミナヨク

六本木一丁目駅からすぐのアークヒルズ内アーク・カラヤン広場にて、毎週火曜と土曜に「ヒルズマルシェ」が開催中。ここで毎月第4土曜日にはミナヨクの『おつかい大作戦』プロジェクトメンバーが参加している。『おつかい大作戦』とは何か、その活動内容を紹介したい。

代表の森田麻耶さん（左）大木敦子さん（右）。

ミナヨクとは何か？

ミナヨクとは、2015年度からスタートしている麻布地区総合支所の地域事業の一つ。20代から40代の比較的若い世代を中心としたまちづくりの取り組みで、「みんな」でまちを「よく」するコミュニティデザイン活動、その名も「ミナヨク」。現在60名となる修了生は、それぞれが「まちの人とつながる」ことを目指して活動している。

そのミナヨク修了生の中から『おつかい大作戦』のプロジェクトが生まれた。子どもが一人で出歩くきっかけとなる「初めてのおつかい」、それを安全な場所で開催したいという思いから始まった。子どもを見守りつつおつかい体験ができる場所として、森ビル株式会社の協力を頂き、アークヒルズの「ヒルズマルシェ」を舞台に活動している。

ヒルズマルシェでは、農業などを営む業者が10店舗以上集まり、野菜・果物・花・パン・加工品を販売している。新鮮で手に入りやすい価格なので、地元の人に人気なだけでなく、遠方からも買い物に来る人が多い。

アーク・カラヤン広場は大きな屋根があるため、よほどの悪天候でない限りは雨でも開催している。

おつかい大作戦

『おつかい大作戦』は、子どもが買い物を通してお店の人など家族以外の人と話したり、お金の計算をしたり、自分ひとりで買い物ができたという自信をつけたり、買い物の楽しさを体験することを目的としている。

事前登録は不要で、参加費も無料(※)。年齢制限はなく、幅広い年齢の子どもが参加できる。当日、マルシェ内の『おつかい大作戦』のブースで受付した後、まず親子で下見をする。何を買うか決めたら、受付に戻り「おつかいメモ」を作る。そして、メモを首から下げておつかいに出発という流れだ。「おつかいメモ」に野菜や果物の絵が描いてあるのは、絵に○をつければまだ読み書きができない子どもでも何を買えばいいか理解できるため。また、おしゃべりの苦手な子も、「おつかいメモ」をお店に提示すれば買い物ができる。子どもがマルシェ会場から出ないようにスタッフが見守っているので、安全面でも安心だ。

事前の親子の下見では、「ここのおじさんがコーヒーを売っていたね」「お花屋さんがあるね」など子どもに場所や品物を印象づけるような会話が必要になるそうだ。親子のコミュニケーションを深め、また失敗をすることによりできるようになる喜びを親子で味わうことができる。取材でも、おつかいを終えて受付に戻った子どもが、ご両親に嬉しそうな顔で買い物のエピソードを話す姿が印象的だった。

(※)買い物に使うお金は個人負担。お子さんに預けられる金額をご準備ください。子ども用の財布も忘れずに。

運営者が語る『おつかい大作戦』

活動を運営するのが森田麻耶さん、大木敦子さん。今回は森田さんに詳しくお話しをお聞きした。現在8月で6回目の開催となるが、運営には継続的に人手が必要なため苦労したこともあったそうだ。誰かがやり続けないと意味がなくなってしまうと思い、森田さんは自ら積極的に活動を続けている。最近では、スタッフの手が足りない為、地域からボランティアの協力を得ているという。

運営者は、参加者と出店者をつなげる役割をしている。開催時には出店者へ挨拶をして『おつかい大作戦』について説明し、子どものお金の計算間違いがあった場合などのサポートをお願いしている。事前準備や交渉に時間がかかるなど大変なこともあるが、それ以上に喜びが多くやり甲斐のある活動だと森田さんは話す。そして、新しく始まった地域SNSアプリ「PIAZZA」（本誌P8で紹介）を積極的に宣伝に活用しているとのことで、今後の展開に注目していきたい。

受付で対応中の森田さんと大木さん。小さなお客様にも笑顔で丁寧な案内を心掛けている。

まだ文字の書けない子どもでも、メモの絵に印をつければ野菜や果物、買いたいものが明確だ。

合同会社さがみこ有機畑の熊谷さん曰く、「上手にお買い物ができたね。どうもありがとう、また来てね。」安全安心な環境の中で、子どもが楽しく自由にお買い物体験できる。

●ヒルズマルシェ in アークヒルズ

毎週火曜11:00 ～ 19:00、土曜10:00 ～ 14:00に開催
http://www.arkhills.com/hillsmarche/
『おつかい大作戦』は毎月第4土曜10:00～14:00に定期開催（受付は13:30まで）

●取材協力

Fashionable M株式会社 代表取締役 森田麻耶さん
東京家政大学 造形表現学科 織物研究室 大木敦子さん

（取材／田中亜紀、中嶋恵、西森瑞穂　文／中嶋恵、西森瑞穂）

Notes of AzaBu

麻布学園の管弦楽部を訪ねて

麻布のなかには、あらゆる音が絶え間なく流れています。自然に生まれてくる音、音楽……。
心地よい音と言葉がひとつになる瞬間やつながりを発見していきたいと思います。
第一弾は「麻布学園」の管弦楽部（中1～高2まで総勢約60名）のご紹介です。

“Note”は不思議な言葉です。「言葉」と「音」という両方の意味があるからです。言葉と音がひとつになる瞬間や気分を徒然なるままに綴ってみたいと思います。

生徒たちの自主的で自由な演奏♪

私が麻布学園、管弦楽部の存在を知ったのは昨年の秋。ツイッター上でのことです。彼らの演奏を聴きに、今年5月の文化祭で行われたスプリングコンサートに行ってきました。

そこでは曲目ごとに指揮者3人が交代し、最後のカレリア組曲では、曲を暗譜しスコア（楽譜）を譜面台に置かずに振っていました。

ピュアな生音は、講堂の音響効果もあり、心地よく流れていました。まさに麻布のなかのオアシスだと感じました。

演奏終了後、管弦楽部による『名曲喫茶』なるコーナーがあると聞き、行ってみました。そこでは、部員が来場者にお茶やケーキを提供し、会計もしていました。先ほど演奏をしていた生徒の姿も。そして、ここでも軽快な音楽が奏でられており、生徒が自ら企画・運営している姿をみて驚きました。

この管弦楽部は勉学と音楽の練習を、どのように両立しているのでしょうか。そんな素朴な疑問が積み重なり、7月、取材をしました。高校2年生の部長、副部長からは定期演奏会に向けた生徒主導による年2回（合計11泊）の合宿や、練習方法などについての話を伺うことができました。そして練習室にも案内してもらい、演奏会のリハーサルを行っている姿を見学しました。普段のリハーサルでは3時間程度の練習を週3回程放課後に行っているそうですが、各自の自主性と勉学の両立バランスによって参加者の人数は変化するようでした。顧問の市原敦先生の「何かで一番になる、例えばコンクールでの入賞を目指す、といったことは本質ではありません。あくまでも音楽好きな生徒たちが時間を共有し、みんなで演奏すればなお楽しいと感じられたら、そんな風に考えています」との話に共感しました。

中学一年生から高校二年生の生徒たちは週3日ほど練習しています　写真提供：麻布学園管弦楽部

自分たちで選んだ曲を自らの工夫と解釈で演奏し、楽しんでいる管弦楽部員による演奏は、ありのままの音色が美しかったです。自分の気持ちを偽らないからこそ音楽を純粋に楽しむことができる。そのひたむきな姿に心が洗われました。ちなみに、麻布学園を卒業しても音楽を続ける卒業生が多いといいます。

この管弦楽部は40年前に発足して以降、毎年4月、5月、9月のコンサートや学内の式典において部員が力を合わせ活躍しています。ぜひツイッターなどで情報を確認し、この麻布学園の学園兄弟たちによるすこやかな演奏を聴きに行ってほしいと思いました。

平成29年度　第70回定期演奏会より

麻布学園管弦楽部　https://azb-phil-club.amebaownd.com/

●取材協力／学校法人麻布学園　港区元麻布2-3-29

文化祭「名曲喫茶」の風景

写真協力：麻布学園管弦楽部

（取材／田岡恵美、田中亜紀　文／田岡恵美）

麻布未来写真館

三谷坂（さんやざか）

～再開発を乗り越えた坂 その2～

前号で取り上げた道源寺坂（どうげんじざか）。今回はここから出発して六本木と赤坂の境目を歩いてみよう。ここにも、再開発を生き延びた“江戸の坂”があった。

撮影：神田正人

六本木一丁目と赤坂を結ぶ坂

道源寺坂から、泉（いずみ）通りとスペイン坂が合流する地点に立ってみよう。このエリアは、全長約1kmに220本以上の桜が植えられている。春になると、豪華絢爛な桜のアーチ、ライトアップされた夜桜鑑賞に人々が集まる。また、夏は夏で緑が深く、木陰は涼しく、秋には紅葉となって街を彩り、冬はイルミネーションが美しい、閑静なレジデンス・エリアでもある。地下鉄南北線の開通以来、利便性も高く、四季折々の景観が楽しめる優美でスタイリッシュな場所だ。

そこからさらに、桜坂方面へと進んでみよう。スペイン大使館を過ぎると、右手に小さな坂が現れる。ホテルオークラ別館前から、サントリーホール裏へと下る**三谷坂**だ。ここは承応（じょうおう）3（1654）年、四代将軍・徳川家綱（いえつな）の頃、元地が御用地となり、移住した人々が開いた土地である。昔は家が三軒しかない谷地だったとか、その低地を“三屋谷（さんやだに）”と呼んだとか、南谷（みなみだに）・北谷（きただに）・中谷（なかだに）という3つの谷あいがあって“三谷町”になったとか、諸説ある。のちに「今井三谷町」と呼ばれていたが、明治2（1869）年、「麻布谷町」に吸収された。もともと**三谷坂**は、蛇行しながら現・六本木通り付近まで下っていく長い坂だった。しかし、昭和61（1986）年の大規模な赤坂・六本木再開発＊により、ばっさり寸断。風格ただよう現在の坂へと様変わりした。以後、このエリアはアークヒルズとして愛され続けている。ちなみにアークヒルズのARKとは、AkasakaとRoppongiのKnot（結び目）。昔から、赤坂霊南坂町（れいなんざかちょう）（現・赤坂一丁目）と麻布市兵衛町（いちべえちょう）（現・六本木一丁目）を結んできた**三谷坂**そのものだ。また、3つの谷あいがあったという江戸の景色を今に伝える、過去と現在の“結び目”でもある。これからもArk（方舟（はこぶね））のごとく、押し寄せる変化の波を乗り越え、生き延び続ける坂であってほしい。

＊職、住、遊、商、学、憩、文化、交流などの都市機能と自然が共生し、コンパクトに徒歩で暮らせる生活、Vertical Garden City（ヴァーティカル ガーデン シティ）（立体緑園都市）を目指す“ヒルズ”の原点となった。

昭和50（1975）年　三谷坂（坂上から）
撮影：田口政典、提供：田口重久

平成30（2018）年　三谷坂（坂上から）
目の前にアーク森ビルがそびえ立つ。

江戸後期には、三谷坂を挟んで❶六本木側に「阿部駿河守」（現・千葉県富津市の上総佐貫藩の下屋敷）、❷赤坂側に「松平大和守」（武蔵川越藩の中屋敷）があった。

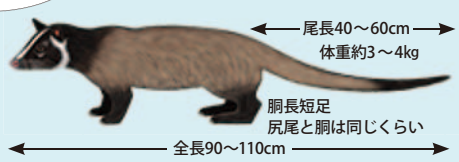
合流点から桜坂へと抜けるアーチ。
右手に見える趣のある塀は、スペイン大使館の裏門にあたる。

散策こぼれ話

さて、かれこれ1年ちかく前になるだろうか。

とある夜、筆者は三谷坂で一匹の白鼻芯（はくびしん）に出くわした。これまでも、芝公園などでは何度か見かけているが、まさかこんなところで、ひょっこりはん！人の気配に怯えるでも、威嚇するわけでもなく、マンションの植込みで獲物を探していた。この辺りは、港区の緑化計画[1]に伴い、アークガーデンをはじめ、緑ゆたかな環境に恵まれている。「東京タヌキ探検隊！」の宮本拓海さん[2]によれば、スペイン大使館やスウェーデン大使館周辺では、白鼻芯2匹とタヌキ1匹の目撃情報も寄せられている。ストレスフルな都会暮らしで、心を癒す自然環境。そこには、野生動物との共存も迫られる。彼らをみかけた時は、「近づかない、騒がない、食べ物を与えない」が鉄則だという。古きもあり新しきもあり、自然も交通の便も整った麻布・六本木ライフは、まだまだ奥が深いのである。これからも、ザ・AZABU編集部がお届けする最新レポートをお楽しみいただきたい。

顔の中央が白いから
白鼻芯（ハクビシン）
鼻はピンクの子が多い



イラスト提供：宮本拓海

1：港区では敷地面積250㎡以上の建築物の建築などを行う際に、「港区みどりを守る条例」の施行規則第12条第1項に基づき、緑化計画書の提出を必要としている。

2：東京都に生息する野生動物の目撃報告と観察を基に、生息分布地と生態を研究しているアマチュア研究者。株式会社アスキーの編集者を経て、身近な生物に関する著書を多数上梓。「東京タヌキ探検隊！」（http://tokyotanuki.jp/）では随時、目撃情報を受け付けている。

●参考文献
・港区立港郷土資料館編『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』港区立港郷土資料館
・宮本拓海他著『タヌキたちのびっくり東京生活：都市と野生動物の新しい共存』技術評論社
・山野勝『江戸と東京の坂：決定版!古地図“今昔”散策』日本文芸社
・森ビル株式会社 https://www.mori.co.jp/

「麻布未来写真館」とは

港区麻布地区総合支所では、地域への共感や愛着を深めていただくため、麻布地区の歴史やまちの移り変わりを記録、保存、継承する活動を行っています。

麻布地区の定点写真の撮影、昔の写真の収集等については、港区在住、在勤、在学者で構成された区民参画組織「麻布を語る会　麻布未来写真館分科会」が主体となって活動しています。まちの歴史や文化を多くの方々に知っていただけるよう収集した写真をパネルとして港区ホームページや展示会で紹介していますのでぜひご覧ください。

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています！

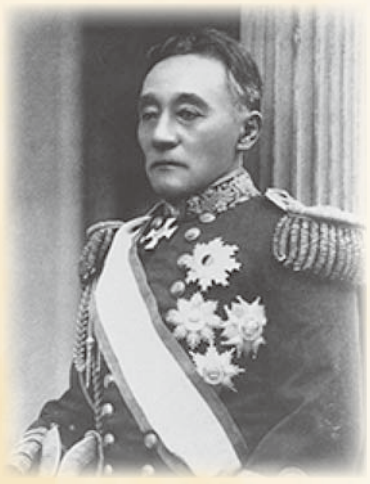
明治から昭和にかけての麻布地区の建物や風景、お祭りなどの写真を募集しています。詳しくは、港区麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当までご連絡ください。

お問合せ　電話：03-5114-8812

（取材・撮影・文／小池澄枝　レイアウト／田中康寛）

麻布の軌跡

狸穴の皇孫養育主任 川村純義伯爵



川村純義伯爵。妻春子は西郷隆盛の従兄弟にあたる。白洲正子は長女樺山常子の次女。
（国立国会図書館デジタルコレクション。近代日本人の肖像　海軍軍人）

将来、天皇となる男子は、生まれて間もなく里子に出され、里親の元で育つのが皇室の慣習だった。迪宮裕仁親王、後の昭和天皇の里親となったのは、海軍卿（海軍大臣）や枢密顧問官などを歴任し、麻布区狸穴町4番地、今の東京アメリカンクラブの地に邸宅を構えていた川村純義だった。明治天皇の信任篤く、天皇の初孫の養育を任された川村とはどのような人物だったのだろうか。

日本海軍の礎を築く

川村は江戸末期の天保7（1836）年、薩摩藩の下級士族の長男として生まれた。兵学を学ぶ中で「これからは鉄砲の時代」と悟った川村は砲術を修行、安政2（1855）年には、江戸幕府が新設した長崎海軍伝習所に一期生として入所した。薩摩藩から選抜された同期には、後に大阪商工会議所を設立する五代友厚がいた。戊辰戦争では薩軍小銃4番隊長を務め、会津若松城攻撃で武勲を立てた。

明治の世になると島津直義知事に従って上京し兵部省に入り、明治政府の海軍整備に尽力した。川村が特に力を注いだのが人材の育成だった。「軍艦は金さえ出せば手に入るが、人材の育成には時間がかかる」と、自ら兵学頭（後の海軍兵学校長）となり士官の育成にあたった。創設期の帝国海軍にあって川村は、軍艦の発注や艦隊の整備などを主導、明治11（1878）年には海軍トップの海軍卿（後の海軍大臣）に昇りつめた。これと決めたら一意専心、強硬な軍拡主張や薩摩出身者の重用などが批判を受けて一時は職を追われるも復権、2度にわたって海軍卿を務めている。霞ヶ関にあった海軍省には、伊藤博文内閣で初代海軍大臣となった西郷従道（隆盛の弟）とともに川村の銅像が建てられるほどの、帝国海軍きっての功労者だった。

養育主任に抜擢

明治天皇の初孫、迪宮親王の里親になるのは明治34（1901）年、川村65歳の時である。海軍卿を退いた後、枢密顧問官や宮中顧問官などを歴任していた川村に、狩猟に随行して親交のあった皇太子（後の大正天皇）から直々に「養育を委ねたい」と打診されたのだ。皇孫養育役の要件は「武勲のある老臣で夫妻共に壮健、且つ子女の養育の経験があり和やかな家庭生活を営む者」だったという。帝国海軍の重鎮で2男2女を育てあげた川村はまさに適任であった。決め手となったのは明治天皇の強い意向だったとされている。海軍時代に天皇の西方巡行に随行していたほか、狸穴の自宅を訪れた天皇皇后を能楽や薩摩琵琶でもてなすなど長年の親交があった。天皇は川村の謹厳実直な人柄を見込んで、初孫を託す決心をしたのだという。あまりの重責に即答はできず一旦は持ち帰った川村だったが、家人とも相談の上「これを最後のご奉公、鞠躬尽瘁＊の至誠を捧げよう」と養育役を引き受けた。皇太子は「万事自身の孫と思って育てて欲しい」と、まだ生後70日の迪宮親王を川村家に委ねたのである。

麻布区の住民は、親王を乗せた馬車を沿道で出迎えたり門扉に国旗を掲げたりして歓迎したという。明治15（1882）年に狸穴町の約1万平方米の敷地に建てられた川村邸は、鹿鳴館や三菱一号館などを設計し西洋建築の基礎を築いたジョサイア・コンドル（ザ・AZABU 20号掲載）による初めての個人住宅だった。当時としては珍しい洋風建築だったが、親王を迎えるために、さらにいくつかの補修や増築が行われたという。迪宮親王は明治34（1901）年7月7日から、この狸穴の邸宅と静岡県沼津市にあった川村家の別邸で、3歳になるまで育てられたのである。

狸穴の川村純義邸　1954年に東京アメリカンクラブに売却されるまで建物は現存していた。
（『「鹿鳴館の建築家 ジョサイア・コンドル展」図録 増補改訂版』建築画報社、2009年より転載）

川村邸の大地球儀で遊ぶ迪宮親王（左）と淳宮親王。撮影：丸木利陽。
写真提供：丸木眞二・福井県立歴史博物館

川村家での養育

親王の養育に先立って、川村は旧主君島津家のイギリス人家庭教師にヨーロッパの皇帝教育について教えを乞うたほか、幼児教育や帝王学に精通した人を訊ね歩いたという。最終的に決まった養育方針は次のようなものだった。

心身共に健全な発育を遂げさせ、／物を恐れず人を尊び、／
難事に耐える性格を養い、／気儘我儘をさせないよう育てる。

川村の養育ぶりを伺わせるこんなエピソードが残されている。ある夕餉に好物でないものを供された迪宮は「これいやっ」と箸を投げ出した。川村は「嫌なら結構、爺はもうご飯を差し上げぬ」と膳を下げる仕草をしたところ、幼い親王は「食べる」と泣いて謝り、その後、2度と好き嫌いを言わなくなったという。

川村は皇太子の第二子の淳宮雍仁親王（後の秩父宮）も自宅に迎え入れ、2人の親王の里親となった。将来、天皇になる皇孫は、親子の愛情や兄弟の絆も国民の範たるべきという考えからだったという。迪宮は一つ年下で闊達な淳宮を「あっちゃん」と呼んで可愛がり、些細なものも分かち合い、玩具を弄ぶのに気づくと「危ない、危ない」とよく気遣っていたそうだ。

海軍時代に1年間の欧米視察を経験した川村は、外国に対して恥ずかしくないものをと、洋服は全てフランスから貴族の子供服を取り寄せ、玩具も舶来品を揃えていた。皇后から贈られた木馬は兄弟の大のお気に入りだったという。

親王兄弟は、夏は日光や箱根、冬の間は沼津の別邸で過ごすことが多かった。天皇が軍事演習視察の帰路で沼津を通過する際には、川村は兄弟を駅に連れ出して車上の天皇を出迎える機会を作り、天皇も孫達の成長を喜んだという。

箱根へ避暑に向かう道中では、大事に至らなかったもののこんな出来事があった。療養中の川村に代わって長男の鉄太郎が引率した登山電車が上り坂で突然停止、徐々に逆走し始めた。鉄太郎らは車座になって親王を囲み衝突に備えた。幸い逆走に気付いた後続車の運転手が車両を移動し、間一髪衝突を逃れることが出来たという。一つ間違えば大変な惨事となるところだった。

幼い2人の皇孫を育てた川村は、日露戦争の最中の明治37（1904）年8月、狸穴の自宅で68年の生涯を閉じた。3年余りの皇孫養育の労で、川村は死後に海軍大将に昇進している。

幼年の皇子を養育役に委ねる古来の慣習は、ドイツ人侍医ベルツなどからも疑念が呈されていた。里親宅でなく初めて親元で育ったのが、現（今上）天皇の長子、来年皇位を継承される皇太子殿下だ。川村の没後、半世紀余りを経てのことである。

＊鞠躬尽瘁　ひたすら心を尽くして骨折り国事に努めること。

●参考文献
『今上陛下聖徳余影』（聖徳余影発行所 1929）
宮内庁編『明治天皇紀』索引、2巻、5巻、7巻、10巻（吉川弘文館 1968）
太平洋戦争研究会編『日本海軍将官総覧』（PHP研究所 2010）
田村栄太郎著『川村純義・中牟田倉之助伝：明治海軍の創始者』（日本軍用図書株式会社 1944）
安藤優一郎著『「勝海舟と福沢諭吉」維新を生きた二人の幕臣』（日本経済新聞出版社 2011）
人見幾三郎編『京浜所在銅像写真第1輯』（諏訪堂 1910）
渡辺幾治郎著『明治天皇の聖徳』（千倉書房 1941）
『「昭和天皇実録」第1』（東京書籍 2015）
半藤一利ほか著『「昭和天皇実録」のなぞを解く』（文藝春秋 2015）
保阪正康著『昭和天皇』（中央公論新社 2005）
トク・ベルツ編『ベルツの日記・下巻』（岩波書店 1979）
鶴見俊輔・中川六平編『天皇百話・上の巻』（筑摩書房 1989）
田中光顕監修　長野新聞株式会社編纂『聖上御盛徳録』（長野新聞 1935）
安倍能成等著『天皇の印象』（創元社 1949）
福田和也著『昭和天皇（3）養育先へ－日本海軍の創設者、川村純義に預けられた理由』（文藝春秋83（12）2005）
鈴木博之、藤森照信編『鹿鳴館の建築家ジョサイア・コンドル展 図録 増版改訂版』（建築画報社 2009）
研谷紀夫編『皇族元勲と明治人のアルバム』（吉川弘文館 2015）

●取材協力／影山杏

（取材・文／出石供子）

港区麻布地区総合支所だより

平成30年度港区総合防災訓練（麻布会場）を実施します ～自助・共助意識を高めましょう～

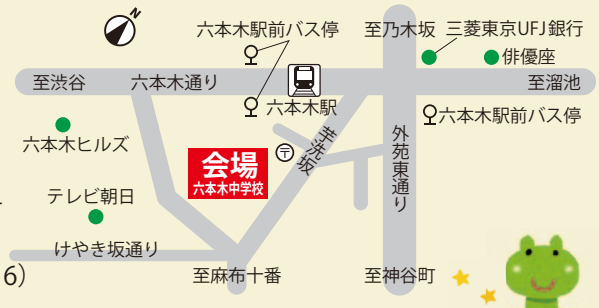
日時 **平成30年11月4日（日）**

午前9時30分～11時30分

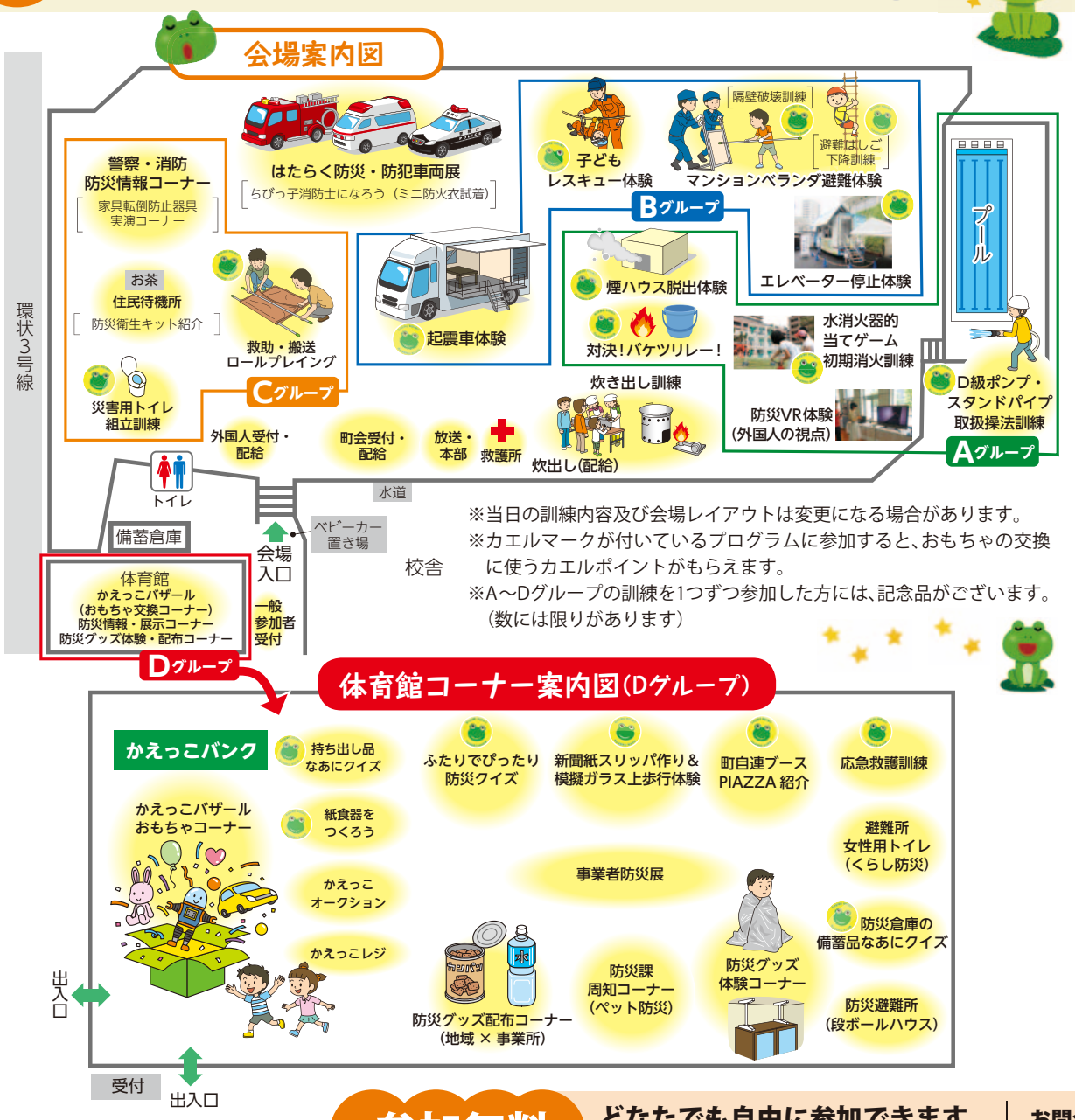
※選挙等の都合により、日程及び内容が変更になる場合があります。

※天候により体育館のみで実施になる場合があります。当日は「みなとコール03-5472-3710」にお問い合わせください。

場所 港区立六本木中学校校庭及び体育館（六本木6-8-16）



会場案内図



※当日の訓練内容及び会場レイアウトは変更になる場合があります。
※カエルマークが付いているプログラムに参加すると、おもちゃの交換に使うカエルポイントがもらえます。
※A～Dグループの訓練を1つずつ参加した方には、記念品がございます。（数には限りがあります）

体育館コーナー案内図（Dグループ）

同時開催！ 遊ばなくなったおもちゃを持ってこよう！

イザ！カエルキャラバン！ MESSAGE FROM 1995 AT KOBE

イザ！カエルキャラバン！とは？

「防災訓練」とおもちゃの交換会「かえっこバザール」を組み合わせた楽しみながら防災の知恵や技が学べる新しい形の防災訓練です。

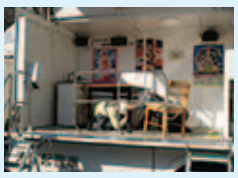
http://kaeru-caravan.jp/

タイムテーブル

9:30	開会式 かえっこバザール （おもちゃの交換会）
↓	
10:00	防災体験プログラム
↓	
12:00	かえっこオークション ※おもちゃがなくなり次第、終了します。

英語通訳ツアー

港区総合防災訓練（麻布会場）では外国人参加者を募集しています。英語通訳者と会場を回り、訓練を体験するツアーなのでお気軽にご参加下さい！



時　　間 午前10時から12時まで

参 加 費 無料（事前申込必要）

●申込期間 平成30年10月1日（月）から11月2日（金）午後4時まで

●申込方法 (1) 氏名 (2) 住所 (3) 電話番号 (4) 日本語対応の可否を電話でお申し込み下さい。

●申 込 先 電話／みなとコール 03-5472-3710
＊日本語または英語
＊受付時間は午前9時から午後5時まで

参加無料 **どなたでも自由に参加できます。当日直接会場へお越しください。**

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話／ 03-5114-8802

港区基本計画・麻布地区版計画書に計上する地域事業について

麻布地区総合支所は、地域を取り巻く状況の変化を踏まえ、施策の成果や課題の検証を行い、平成27年3月に策定した「港区基本計画・麻布地区版計画書※」を本年3月に見直しました。このコーナーでは、麻布地区版計画書に計上されている9つの地域事業の内容について、3回に分けてご紹介します。

※計画期間は平成27（2015）年度からの6か年の後期3年に該当する、平成30（2018）年度から平成32（2020）年度までです。

地域事業とは 麻布地区の実情や特有の課題、その解決の方策等を盛り込み、麻布地域の魅力を高めるために、3か年の年次計画を立て、重点的に取り組む事業です。

麻布地区 地域事業

六本木安全安心プロジェクト～ルール違反ゼロの六本木へ～

ルール違反 ゼロの六本木へ。
合い言葉は、ZERO PPONGI
Toward a Roppongi with ZERO violations.
Our slogan is ZERO PPONGI

安全で安心できる六本木のまちの実現を目指す「六本木安全安心憲章」を、誰にでも分かりやすく周知・浸透させるため、憲章の新デザインを活用した周知・啓発策や町会・自治会、商店会、事業所との協働によるキャンペーン活動、港区「六本木安全安心憲章推奨事業所等認証制度」の取組を実施しています。

今年度は憲章制定5周年を記念し、7月から12月にかけて様々な企画を実施しています。詳しくは、港区ホームページ等をご覧ください。

「地域と事業所」防災連携プロジェクト ～更なる共助体制の構築をめざして～

麻布地区をいくつかに区域分けした上で、モデル地域を設定し、ネットワーク会議を設置していきます。今年度はモデル地域の選定と事業所へのアンケート調査を実施します。また、事業所向けの講演会等の実施や港区ホームページなどにより情報発信を強化していくことで、会議に参加しなくても情報が共有できる取組を実施します。

みんなでエコっとプロジェクト

自然環境やリサイクルに関する取組を行う事業所等と連携し、バードウォッチングや生き物観察、自然散策、リサイクルなどをテーマに、参加する親子が自ら考え、学ぶことができるワークショップを実施します。今年度は6回開催します。

※麻布地区の地域事業は、46号（12月発行予定）、47号（平成31年3月発行予定）でもご紹介します。

麻布地区版計画書はこちらから▶

港区ホームページ
http://www.city.minato.tokyo.jp/
港区基本計画　検索

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当　電話／ 03-5114-8812

国際情勢について学ぼう！
～公開講演会開催のお知らせ～

東洋英和女学院大学の国際関係研究会（IRSS）では、国際情勢に関する見識を深めることを目的として、勉強会や意見交換等の研究活動を行っています。

このたび、一般の皆さんにも広く国際情勢について関心を持っていただこうと、港区麻布地区総合支所との共催で、全3回の講演会を開催します。日々変貌する国際情勢について専門家をお招きし、日本との関わりについてお話を伺います。貴重な機会ですので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

定　　員　各回50名（申込順）
参 加 費　無料
場　　所　東洋英和女学院大学 大学院205教室（港区六本木5－14－40）
申込締切　各回開催日の1週間前
申込方法　住所・氏名・年齢・職業を明記のうえ、メールにて下記にお申込みください。
Email : irss.toyoeiwa@gmail.com

日時			講師	テーマ
第1回	10月20日（土）	13:00～14:30（全3回共通）	早稲田大学大学院 青山瑠妙 教授	中国の台頭と東アジアの国際関係
第2回	12月8日（土）		南山大学 平岩俊司 教授	変貌する米朝関係と日本の行方
第3回	1月12日（土）		東洋英和女学院大学 今野茂充 准教授	北東アジアの新たな国際関係と日本

麻布地区 地域事業

「麻布未来写真館」パネル展を開催します

麻布地区総合支所では、区民とともに麻布の昔の写真の収集、現在の風景写真の撮影を行っています。このたび、麻布地区の今と昔を広く紹介することにより地域への愛着を深めていただくため、以下のとおりパネル展を開催します。

日　　程　10月16日（火）～10月30日（火）
時　　間　午前9時～午後5時　※最終日のみ午後4時まで
会　　場　港区立麻布図書館　※18日（木）のみ休館日
対　　象　どなたでも
参 加 費　無料

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当　電話／ 03-5114-8812

港区の花と木写真コンテスト

港区の花と木のベストショットを募集しています。あなたが撮影した、港区に咲いているハナミズキ、バラ、アジサイの写真を送ってください。あなたの素敵な1枚をぜひシェアしてみませんか？フォトコンテストに応募された写真は港区情報誌又はホームページに掲載されます。また、Instagramからもご応募頂けます。写真にハッシュタグ「#港区の花と木」を付けて投稿して下さい。その際、港区内写真撮影時の位置情報または撮影場所を明記の上、ご投稿下さい。たくさんのご応募をお待ちしております！

応 募 期 間　8月20日（月）～11月30日（金）
対　　象　どなたでも参加可能
費　　用　無料
申込み方法　写真データと共に、①名前（ペンネーム）②港区内撮影場所を明記の上、下記よりご応募ください。
Email:minato.hanatoki@gmail.com
instagram:minato_manamarche

お問合せ／教育委員会事務局教育推進部生涯学習スポーツ振興課生涯学習係
電話／ 03-3578-2741

港区の新たなシンボルマークが出来ました

港区シティプロモーション戦略に掲げる6つの都市イメージ（※）を表すイメージカラーで染め上げた「のれん」をモチーフにしています。風にゆれる３つに割れた「のれん」は港区の頭文字のMの形にもなっています。

※6つの都市イメージとは、①国内外に開かれ多様性を受け入れる都市②文化芸術の彩りと歴史が息づく都市③安全で安心できる都市④アクセス性に富んだ便利な都市⑤街並みの美しさで魅了する都市⑥温かい優しさと活気に包まれる都市

MINATO CITY

インドネシアの文化と最新お国事情に触れよう！
～大使館交流イベント参加者募集～

東洋英和女学院と区が連携し、地域の方々が大使館と交流できるイベントを開催します。インドネシアの文化や食にも触れられる貴重な機会です。ぜひご参加をお待ちしています。

日　　時　平成30年10月19日（金）
午後6時～午後8時
＊詳細は別途、東洋英和女学院大学生涯学習センター HPをご参照ください。
会　　場　東洋英和女学院大学大学院棟201教室（港区六本木5-14-40）
申込期間　10月1日（月）～10月14日（日）
定　　員　先着30名
参 加 費　無料
使用言語　英語　※一部日本語通訳あり
申込方法　住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、往復ハガキ、ファックス、メールのいずれかの方法で、下記にお申込みください。
申 込 先　〒226-0015　神奈川県横浜市緑区三保町32
東洋英和女学院大学　生涯学習センター
電話／045-922-9707　FAX／045-922-9701
E-mail ／shougaictr@toyoeiwa.ac.jp

麻布地区 地域事業

【麻布地区地域サロン事業】
“ちょこっと立ち寄りカフェ”にお越しください

麻布地区総合支所では、地域の高齢者の皆さんが気軽に立ち寄って楽しく交流できる場所として、「ちょこっと立ち寄りカフェ」を開催しています。どなたでも気楽な雰囲気でお茶やコーヒーを飲みながら、おしゃべりや季節のイベントなどを楽しんでいただけます。毎月、麻布地区のいきいきプラザ4館で開催しています。ぜひ、ちょこっと立ち寄ってみてください。地域のボランティアも皆さんのお越しをお待ちしています。

会場及び内容（予定）
※プログラムは変更することがありますのでご了承ください。イベント、講座、ゲームなどを行っています。

◆飯倉いきいきプラザ　東麻布2-16-11	◆西麻布いきいきプラザ　西麻布2-13-3
10/3（水）パステル画 11/7（水）風船バレー 12/5（水）手作り作品（干支づくり）	10/18（木）朗読会 11/15（木）クリスマスグッズづくり 12/20（木）クリスマス音楽会
◆ありすいきいきプラザ　南麻布4-6-7	**◆南麻布いきいきプラザ　南麻布1-5-26**
10/11（木）万華鏡づくり 11/8（木）ポップスコーラス 12/13（木）クリスマスグッズづくり	10/24（水）看護師さんのお話し＆ハロウィンパーティー 11/28（水）コンサート（映画音楽） 12/19（水）クリスマス会

時　間　毎回午後1時30分から午後3時30分まで　**対　象**　どなたでも
参加費　100円（茶菓子代含む）
申込み　不要です。直接会場にお越しください。

お問合せ／麻布地区総合支所区民課保健福祉係　電話／03-5114-8822

都税事務所

災害等により甚大な被害を受けた方に対して都税を減免する制度があります

災害等により甚大な被害を受けた方に対して、一度課税された税金のうち、納期限前のものを、被災の程度等によって減免（軽減または免除）する制度があります（納税を猶予する制度もあります。）。対象は、固定資産税・都市計画税（23区内）、不動産取得税、個人事業税などです。原則として、納期限までに、納税者ご本人からの申請が必要です。被災の事実を証明する書類を添えて、都税事務所へ申請してください。

お問合せ／港都税事務所　電話／ 03-5549-3800（代表）

オレオレ詐欺・還付金詐欺被害に要注意！

不審な電話がかかってきたら、絶対に個人情報を教えず、本物の家族に連絡し、警察に相談してください。また、警告音声が流れる迷惑電話防止機能付電話機の設置をお勧めします。

お問合せ／麻布警察署防犯係　電話／03-3479-0110（内線2162）

港区麻布地区総合支所だより

ご近所情報満載！地域SNSアプリ「PIAZZA（ピアッツァ）」がスタート！暮らしに役立つ「つながり」を育もう！

まちでのつながりで、暮らしを豊かに

PIAZZAとは、イタリア語で「広場」という意味で、身近なイベントや日常の暮らしに関する情報交換、不用品のやり取りなどを通じて、地域密着型のコミュニケーションを促進するためのアプリです。

中央区や江東区など、人口流入が著しいエリアを中心に展開しており、特に30～40代やファミリー層が多く利用しています。

麻布・六本木エリアで展開中！

麻布地区の地域コミュニティ活性化を目指すため、港区、港区麻布町会・自治会連合会、「PIAZZA」を運営するPIAZZA株式会社で連携協力協定を締結し、今年7月から「PIAZZA」内に「麻布・六本木エリア」が開設されました。

今後、「PIAZZA」と連携しながら、誰もが地域情報をいつでも入手でき、気軽に地域や行政とつながれることで、住民同士、そして地域関係者間の新たなつながりや取組が生まれるコミュニティを目指していきます。

現在、「お祭りを開催します」「ベビーカーをお譲りします」「ペットOKのカフェがあります」といった、麻布地区を中心とした暮らしに役立つ地域情報が「PIAZZA」に集まっています！防犯・防災、子育て等の行政情報も適宜投稿されますので、「引っ越してきたばかりなので地域の事をもっと知りたい」「子育て仲間がほしい」、そんな方はぜひ一度「PIAZZA」をお試しください。

PIAZZAで麻布での暮らしがもっと楽しくなる

まちのみんなで暮らしに関する情報のやりとりをしたり、ちょっと困った時に相談しあったり、使わなくなった物を必要としている人に譲ったり…
このまちをもっと知り、みんなとつながることで、麻布での暮らしがもっと楽しくなります。ここで、実際のご近所さんの投稿を少しだけご紹介！あなたも気軽に投稿してみよう！

イベント・習いごと

イベントや習いごとの情報は大人気！「こんなの見つけた！」「参加してきました！」などのクチコミが飛び交っています。

お祭りを開催します！

ご近所リユース

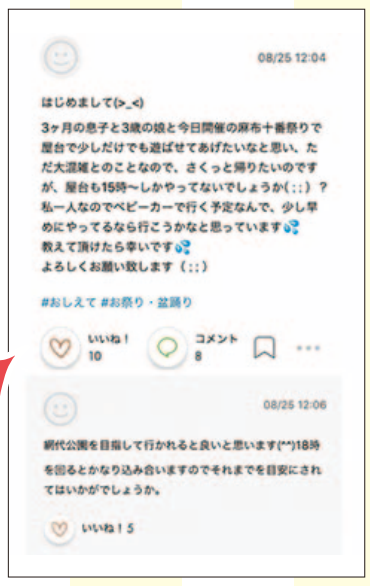
使わなくなった子育て用品から家具や家電まで、大きなもののリユースも、すぐに取りに行けるのはご近所ならでは！

家電をお譲りします！

おしえて！

子連れでいけるレストラン、美味しいケーキ屋さん、おすすめの遊び場など、知りたいことを気軽に聞ける！

子どもと楽しむ方法を教えてください！



あなたの情報が誰かの役に立ちます！ 麻布を楽しみたい人はぜひご登録ください。

登録方法

STEP ❶ PIAZZAアプリをダウンロード

STEP ❷ メールアドレスかFacebookアカウントで登録

STEP ❷ 名前や出身地などを入力登録が完了すると・・・

- Welcome!投稿にアップされます。
- 登録するとまちの皆が歓迎してくれます！
- 出身地や趣味などを入れると、打ち解けやすく、「つながり」が生まれやすくなります！

アプリはこちらからダウンロードしてください

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話／ 03-5114-8802

買い物するなら地元の商店街で

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せくだサイ

住所・氏名・職業（学校名）・電話番号・ご意見・ご要望（日本語又は英語、字数・様式自由）を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電　話／03-5114-8812　●FAX／03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧になれます。

「ザ・AZABU」は英語版も発行しています。

ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちぃばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・ 飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 田中亜紀
Sub Chief 高柳由紀子
Staff 出石供子　田中康寛
おおばまりか　中嶋　恵
大村公美子　西森瑞穂
加生武秀　畑中みな子
加生美佐保　堀内明子
小池澄枝　堀内實三
田岡恵美

編集後記

赤坂と六本木の時間と空間を結ぶ三谷坂を紹介した「麻布未来写真館」。昭和天皇の里親をつとめた川村純義伯爵を取り上げた「麻布の軌跡」。他の題材も含めて真剣に討議されて完成されました。昭和天皇の思いと、親元での子育てを実践されてきた今上陛下の話は、新しい発見でした。今年の4月、縁があって編集委員のお話を頂き、80歳を過ぎた私にとって迷いもありましたが、若い人に触発されて頑張る所存でお引き受けしました。ご一読下さい。（堀内實三）

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。
年中無休／午前7:00～午後11:00　※英語での対応もいたします。
電　話／03-5472-3710　FAX／03-5777-8752
お問合せフォーム／ httos://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html

"Minato Call" information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. – 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;
Inquiry submission form: https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html